

第1回あいち教育賞入賞作品（最優秀賞・優秀賞）

《最優秀賞》

【個人の部】

魅力的な教材開発と主体的な学び・対話的な学びの繰り返しの効果的な位置付けによって子供の創造的な活動を支える授業

—小4年「ドンコがみてきた滝川の姿 わたしたちにできることって何だろう」の実践から—

豊田市立^{くぎゅうだい}久平小学校 ^{すずき}鈴木 ^{たかまき}貴政

〈短評〉

希少な魚ドンコの飼育を通して子供主体の環境学習をつくることを目指した、小学校4年生の総合的な学習の時間における研究である。環境保全に対する多様な視点から子供の心に揺さぶりをかけ、意図的に葛藤させている点が評価できる。紙芝居プレゼンテーションを用いて児童を対立させながら行う話し合いや、地元住民の他、矢作川研究所などの専門家を的確なタイミングでゲストティーチャーとして招く点など、子供が問題意識をもち、創造的な活動へ向かうよう支援しており、参考になる点が多い研究である。子供の思いは教師の見通し以上に切実なものへと発展し、みごとに結晶化した。環境学習の手本となるような実践である。

《優秀賞》（順不同）

【個人の部】

表現と鑑賞を往還することで、つくりだす喜びを味わう造形活動

—見方や感じ方を深める鑑賞コミュニケーションを大切に—

名古屋市立^{とよわか}豊岡小学校 ^{おのおすか}大須賀 ^{あきと}章人

〈短評〉

児童が鑑賞で獲得した知識を生かして表現したり、表現する中で更に見方や感じ方を深めたりすることで、つくりだす喜びを味わうことをねらいとした実践である。アンケート結果をクロス集計し、児童の実態を的確に捉えた上で目指す姿を設定している点から、本実践の必然性が伝わってくる。また、手だても、表現と鑑賞の往還という明確なテーマの下、「鑑賞コミュニケーション」と題してゲーム要素を取り入れたりICT機器を活用したりと、児童が興味を持続でき、自然と関わり合う場ができるような工夫が施されている。ともすれば作品製作後に行いがちな鑑賞活動を単元の導入や中盤に取り入れることで、児童が作品製作に対する見方・考え方を広げ、自分の製作に生かしていることが分かる優れた実践である。

【個人の部】

批判的思考を働かせ、学びを生かして現状をよりよい方向に変えようとする子の育成
—小学6年「『SDGsを考える』データをもとに地域に提案しよう!」の実践を通して—

豊田市立^{すえの}寿恵野小学校 加藤^{かとう} 孝児^{こうじ}

〈短評〉

批判的思考を働かせながら、算数科の学びを生かして現状をよりよい方向に変えようとする子の育成を目指した、小学校6年生算数科「データの活用」における研究である。児童に現状を変えようという気持ちが芽生えるよう、SDGsについての調べ学習や食生活の実態を身近な水で数値化する指標を取り入れるなど、課題を自分事として捉えられるような工夫が評価できる。また、複数の視点で分析する力を育成するために、データを整理し、分析するための用語や見方をまとめさせ、その活用を通して見方・考え方を働かせた問題解決を図るよう促している。主体的に活動する児童の姿が見て取れ、効果的に資質・能力を育んだことが分かる実践である。

【個人の部】

英語に親しみを感じ、生き生きと学びに向かう生徒の育成

—中学1年生英語科「学びと実生活をつなぐCLIL学習」を通して—

長久手市立^{みなみ}南中学校 大乗^{おおくわ} 智子^{さとこ}

〈短評〉

生徒に実生活へとつながる英語指導をしたいという指導者の思いが伝わる実践である。実践の手だてとして、他教科での学習内容を英語学習に取り入れるカリキュラム・マネジメントが行われており、新学習指導要領の趣旨を生かした内容になっている。それによって生徒が他教科での学習内容を再確認し、より深い学びに到達している点もすばらしい。また、洋楽の翻訳をさせる活動では、生徒の感想から、生徒同士が協働で前後の歌詞の流れを考えながら和訳していくことの大切さに気付いていることが分かり、学習内容が生かされていることが伝わってくる。活動の一つ一つから、指導者の熱意が伝わる取組である。

【個人の部】

自然事象に対し目的意識をもって主体的に追究し、他者とかかわり合いながら科学的な考えを深める生徒の育成

－ 1 年理科「体がぶかぶか浮かぶ！？死海の謎に迫る」の実践を通して－

豊橋市立本郷中学校 二村 昇

〈短評〉

自然現象から疑問を見だし、目的意識をもって主体的に追究し、他者との関わり合いを通じて見方・考え方を働かせ、考えを深めることのできる生徒の育成を目指した、中学1年生理科における研究である。実際に体験した「死海の湖水での浮き沈み」の疑問を、単元を貫く問いとして立て、さまざまな種類の水溶液や濃度の異なる水溶液を用いて考察させ、水に浮く物体と沈む物体の違いを生徒自身に発見させた上で理由を考察させるという探究的な学びを促している。また、得られた結果を他者と意図的に関わらせることで、より深い学びにつながるよう仕掛けており、まさに「主体的・対話的で深い学び」を実践した研究である。

【共同の部】

課題を見だし、主体的に学習に取り組む児童の育成

－ 導入でタブレットPCを活用した不思議のタネを取り入れた授業デザインを通して－

稲沢市立小正小学校 代表 藤田 勇哉

〈短評〉

授業の導入時に児童の知的好奇心を揺さぶることで、学習内容に対する興味・関心を高め、主体的に粘り強く課題を解決しようとする児童の育成をねらった取組である。児童に考えるきっかけを与える「不思議のタネ」を各自のタブレット端末に送信するという導入を共通の手だてとして授業デザインをつくり上げ、学校全体で実践に取り組んでいる点が評価できる。導入を工夫することで児童は自ら課題を見だし、主体的に問題を解決しようとする姿が見られる。また、タブレット端末を活用して他者と対話し、協働的な学びを行うなどの取組も行っている。学校全体で継続的により多くの実践に取り組まれることを期待したい。